

12月例会報告

紅葉の正暦寺を歩く

天気は回復。この天気予報を信じ集合場所の近鉄奈良駅前バス停に集まった人数は16名。晴天の空の下、早速バスに乗り込み森本のバス停に。ここで一日の行程を確認のあと軽くストレッチ体操を済ませていよいよ最初の見学地弘仁寺に向けて出発です。少し暖かいとは言え、やはり12月。周りの野山は冬の装いを一段と深め、緑色もくすんでいます。それでも山の所々には名残の紅葉が初冬の静かな佇まいを一段と落ち着いたものにしてしています。

そして弘仁寺。長い長い石段を上りきった先には、私たちを除いて誰ひとりいない境内。そこには真っ黄に色付いた銀杏の落ち葉が降り積もり、えも言えぬ風情を醸し出しています。色と静寂……。この二つが微妙に混じり合って作り出す弘仁寺の風情。本当に青垣の歴史と風土を楽しむにはこの時期を逃せません。是非このお寺を訪れてみてはいかがでしょうか。

しばしの昼食休憩のあと、二番目の訪問地正暦寺へ。この寺へは、長い長い上り坂が続きます。ここも紅葉の寺として有名ですが、さすが初冬の今は、紅葉の色も褪せ、木々も寒さの中で寒そうに震えています。またシーズンを外れた今は、人影もなく静かに佇み、長い長い冬の準備に入っているようです。上空の厚い雲に覆われた景色の中で聞こえるのは菩提寺仙川のせせらぎの音だけです。

ここでは福寿院を訪れ、孔雀明王等の仏様や狩野永納の襖絵を堪能したり、借景を生かした枯山水の庭を満喫します。また正暦寺は、日本酒清酒の発祥の地とか……。

そして最後の円照寺へ。ここ正暦寺からは険しい山道が待っています。それほどの距離でも標高差でもありませんが、小生にとってはきつい厳しい上り道です。それでも休み休みしながら峠になんとかたどり着き、あとは円照寺までの長い長い下り道です。厳しい上り道もしんどいですが、だらだらとした下り道も違った意味で

しんどいもの。途中の荒れ果てた、また整備された山々に目をやりながら、「全国の山はこんな状態なのかな、こんなに荒れているのかな」と正直感じます。そして、やっと円照寺。時刻は3時を過ぎています。ここではバスの時間までやや時間があるので健脚組は崇道天皇（早良親王のこと）陵へ足をはこびます。それからバスに乗り、近鉄奈良駅で下車。忘年会会場へ向かいます。

晴天から曇り空への天気の移り変わりは、気温の変化も伴いますし、私たちの老躯にも厳しいものです。そして何よりも厳しかったのは8.6キロの距離でした。しかし、その中で静謐と落ち着いた色相の素晴らしさを会員相互の親睦を通して体験できたことは良い思い出になりました。機会があれば是非もう一度歩いてみたいコースの一つになりました。

(八木順一)



仲間入い
しました！

入会させていただいて
武内 豊

奈良は古代より現在まで2000年もの間、日本民族の心の故郷として、人に「心の懐かしさ」を感じさせる地として、自然景観の森や田園風景、あるいは神社仏閣のコントラストが存在しています。この自然や景観を大勢の仲間で護って行かれている「奈良・人と自然の会」の活動に大きな感動を覚えました。僅かな力しかありませんが、皆様の活動を共有させていただきたいと思い参加いたしました。皆様よろしく願いいたします。